

あとがき

「環境省五十年史」の作成に当たり、インタビューや原稿執筆を快くお引き受けいただきました皆様に心から御礼申し上げます。

環境省五十年史編さんチームでは、通常業務の傍らで編さん作業を進めてきました。環境省内外の、メンバーが所属している組織の皆様のご理解に感謝いたします。

本史は、インタビューや原稿執筆をお引き受けいただいた方々と環境省五十年史編さんチームだけで作り上げたものではありません。チームメンバー以外の環境省職員にも、編集や取扱方針について相談に乗ってもらったとともに、特に資料編の作成に当たっては省内の資料収集、内容確認等に、原子力規制庁職員も含め協力してもらいました。ここに改めて謝意を表します。さらに、本史の編さんの支援をしていただいた日本エヌ・ユー・エス株式会社の皆様に、感謝申し上げます。

この50年で、例えば東京都内で大気汚染の原因となる二酸化硫黄の濃度が約20分の1になるなど、公害対策は目覚ましい成果を上げた一方で、日本の平均気温は約1.7°C上昇して、北日本の降雪量は半減しています。さらに、気候変動や生物多様性の損失といった新たな課題が深刻化し、国内外で目に見える影響が出始めています。こうした様々な環境の課題に対応するため、環境省は成長を続けています。第5次環境基本計画では、「持続可能な開発目標」(SDGs)や「パリ協定」といった国際的な潮流や複雑化する環境・経済・社会の課題を踏まえ、地域の複数の課題の統合的な解決と持続的な地域づくりを目指す「地域循環共生圏」を提唱しました。また、パリ協定に基づく長期戦略では、「脱炭素社会」を目標に掲げ、それまでの環境対策と経済成長の両立という概念から、「環境と成長の好循環」を掲げました。そして、我が国は2050年カーボンニュートラルの実現を掲げ、ESG投資に代表される金融界の動きとも相まって、もはや脱炭素やSDGsへの対応は経済対策と切り離せないイシューになりました。環境省が、地域とくらしという視点を軸に、環境と経済の視点を持って、国内外の議論を責任ある立場でリードしていくことが期待されています。

「環境省五十年史」で書き留めた諸先輩方の思いを糧に、今後とも、「人の命と環境を守る」という環境庁以来の我々の使命を忘れず、また、「社会変革担当省」として時代と社会から求められる新しい課題に常に挑戦し続ける組織の一員として、様々な課題に果敢に取り組んでいきます。

環境省五十年史編さんチームメンバー（五十音順）

安陪達哉 ・ 飯野恵理 ・ 伊藤隆晃 ・ 井上由美子 ・ 上迫大介 ・ 川村華 ・ 木野修宏 ・ 切川卓也 ・ 工藤俊祐 ・ 黒部一隆 ・ 光山拓実 ・ 迫越理 ・ 須田恵理子 ・ 千葉亮輔 ・ 塚原沙智子 ・ 豊村紳一郎 ・ 鳥居ほのか ・ 中山直樹 ・ 西村治彦 ・ 野本卓也 ・ 萩原辰男 ・ 番匠克二 ・ 平塚二郎 ・ 福井和樹 ・ 福地壮太 ・ 前田大輔 ・ 松岡賢 ・ 皆川裕哉 ・ 安田将人 ・ 山崎寿之 ・ 山舘健太 ・ 横川拓郎 ・ 吉崎仁志